

招 集 期 日	平成 2 7 年 1 0 月 8 日 (木)		開会の場所	教育委員室
開会の時刻 及び宣告者	開会の時刻	午後 3 時 0 0 分	開 会 者	委 員 長
	閉会の時刻	午後 4 時 1 6 分	閉 会 者	委 員 長
委 員 出 席 状 況				
氏 名	摘 要	氏 名	摘 要	
岩 本 一 盛	出 席	柿 沼 拓 弥	出 席	
古 市 明	出 席	小 島 敏 之	出 席	
春 山 教 子	出 席			
議 事 参 与 者 及 び 説 明 の た め の 出 席 者	山畑学校教育部長	斉藤生涯学習部長	岡戸教育総務課長	栗原学校教育課長
	米川学校給食センター所長	池澤生涯学習課長	赤坂スポーツ振興課長	加藤図書館長兼郷土資料館長
書 記 名	教育総務課総務係 横山			
会議事件名	て ん 末			
開 会		10 月定例教育委員会を開会		
日程第 1 新任委員の紹介	岩本委員長	<p>教育委員会の会議は、羽生市教育委員会会議規則第 3 条第 2 項により原則公開である。人事に関する事件、その他の事件について出席委員の 3 分の 2 以上の多数で議決した時は、公開しないことができる。今回の日程で非公開案件はないため、すべて公開するとしてよろしいか。</p> <p>異議なしの声あり。</p>		
	岩本委員長	<p>新たに教育委員に任命された柿沼委員より一言いただければと思う。</p>		
	柿沼委員	<p>教育委員の大職を預かり、保護者の代表として皆様の意見を頂戴しながら、しっかりと役目を果たしていきたいと思う。</p> <p>最近ノーベル賞を受賞した大村智氏は、工業高校の夜間の定時制の先生をしていた時、生徒が昼間町工場で一生懸命仕事をして手が油まみれになり、その油をとらず勉強している光景を見て、</p>		

会議事件名	て ん 末	
<p>日程第2 前回会議録の承認</p>	<p>岩本委員長</p>	<p>自分も一生懸命やらなくてはいけないと、そこから研究を始めたという話を聞き、感銘を受けた。私もそのようなつもりでやっていきたいと思うと同時に、羽生市や近隣市町村の小中学校の先生にもそのような方がいらっしゃるかもしれない。それを発掘するのも教育委員会の仕事ではないかと感じている。皆様の協力をいただきながら、しっかりと努めていきたいと思う。</p> <p>9月の定例教育委員会の会議録の承認について諮った。</p> <p>異議なしの声あり。</p>
	<p>岩本委員長</p>	<p>9月の定例教育委員会の会議録は、承認された旨宣した。</p>
	<p>岩本委員長</p>	<p>10月1日、第4回臨時教育委員会の会議録の承認について諮った。</p> <p>異議なしの声あり。</p>
	<p>岩本委員長</p>	<p>第4回臨時教育委員会の会議録は、承認された旨宣した。</p>
<p>日程第3 報告事項1 平成27年9月定例市議会提出（教育委員会関係）議案等について</p>	<p>学校教育部長</p>	<p>報告事項1について、学校教育部長及び生涯学習部長より説明を求めた。</p> <p>今回9月議会での議案に対する質疑及び市政に対する一般質問について報告する。</p> <p>野中一城議員からの議案質疑は、一般会計決算の児童生徒脊柱側彎症検査委託料について、検査はどのような形で行っているかという質問であった。羽生市では以前は目視による検査であったが平成15年度より埼玉県唯一の検査機関である「埼玉県健康づくり事業団」に委託し、専用の検査機器での「モアレトポグラフィ法」により実施していると答えた。その結果精度の高い検査が行われている。脊柱側彎症と診断された子どもの数は極め</p>

会議事件名	て ん 末
	<p>て少なく、個人が特定される恐れがあるため、報告は控えた。</p> <p>中島直樹議員からの、学校図書館システム導入による効果と実績についての議案質疑に対しては、コンピューターを使った図書館システムは、昨年の夏以降の運用であるため、成果はまだ見えてきていない。しかし今後は人気のある本の傾向やクラスごとの貸出ランキング等も確認できるので、それらを活用しながらより効果的に利用していきたいと答弁した。</p> <p>中島直樹議員より、フューチャースクール研究事業費の内容について議案質疑があった。これは、文部科学省の委託事業であるICTを活用した教育推進自治体応援事業であり、国から補助金が交付される。羽生市では、ICTを活用する事業として、須影小学校、村君小学校、岩瀬小学校で教育計画を作り、これを全国に発信している。学習のやり方が大きく変わり、子ども達が真剣に授業を受けている。まだ始まったばかりだが、今後大いに期待が出来ると思う。タブレット端末は残りの小学校にも随時導入していく計画であると答弁した。</p> <p>野中一城議員から、世帯の経済的な事情で子ども達の学力に格差が生じているのではないかという課題に対し、行政主体の無料学習会を行ったかどうかという提案があった。これについては来年度から行なうことを検討していると答えた。</p> <p>中島直樹議員から、選挙の投票権が18歳から与えられるようになるが、それに関係して、小中学校では主権者教育をどのように行っているかという一般質問があった。知識的な面と実践的な面との二つの側面から指導しており、中学校では、本物の投票箱を使って生徒会長選挙を行ったりしていると答弁した。教育長に対し、もし教員の中で偏った歴史認識による学習指導が行われた場合に教育委員会ではどうするのかとの再質問があったが、これには教育長からそのようなことがあれば、しかるべき処分も念頭におきながら、対応していくと答えた。</p> <p>保泉和正議員からは、新しい教育委員会制度についての一般質問があった。質問は4点あり、1点目と4点目は市長が答弁した。1点目の政治家の教育への介入については、教育に関する事業の執行権は教育委員会にあり、例えば教科書の採択や人事には市長は介入しないと答え、4点目の教育に関する大綱の基本的な考え</p>

会議事件名	て ん 末
	<p>方については、「羽生市教育振興基本計画」の基本理念及び基本方針の部分を大綱に位置づけることを総合教育会議で協議・調整した上で策定したと答弁した。2点目と3点目は学校教育部長が答弁した。2点目の教育長へのチェック機能の強化等については、毎月開催される定例教育委員会での事務・事業の執行状況の報告に委員から意見をいただくこと、会議録の公表により会議の透明化を図ること等を実施していると答え、3点目の法制定後の教育委員会委員に対する認識については、教育委員会が独立した執行機関であることは今までと変わらないので、教育委員一人一人の考え、判断が重要になると答弁した。</p> <p>続いて、永沼正人議員より埼玉純真短期大学との連携についての一般質問があった。学生に羽生に住んでもらえるような方策が取れないか、その前段階として学校と大学がどのように連携しているのかという質問に対し、羽生市が行っている「羽生市学びあい夢プロジェクト」や「子ども大学羽生」の内容を詳しく説明した。</p> <p>生涯学習部長 まず、野中一城議員から産業文化ホールについての議案質疑があった。1点目の産業文化ホールの利用状況については、大規模改修工事により小ホールが25年8月から26年3月末まで、大ホールが26年2月から7月まで休館し、また、平成26年度より指定管理者による運営に切り替えるという変化があった中で、平成26年度の利用者数は全体で68,000人強であり、工事完成後に自主事業を開催したことにより、ある程度前年並みの数字になった。2点目、今後の産業文化ホールの戦略的運営については、魅力ある自主事業の開催、利用者満足度の向上、地域貢献の3つの重点を掲げて進めており、リニューアルされた産業文化ホールがより効果的に活用していくことを念頭に、今後も指定管理者と連絡を密にしながら事業を進めていきたいと答弁した。</p> <p>次に、中島直樹議員から、トップアスリート事業の効果と実績について議案質疑があった。トップアスリート事業については、平成22年度以降現在まで24教室を開催した。昨年度は元プロ野球選手の黒江透修氏を含め5人の方を講師に招き、少年野球教室を6月、7月の2回開催している。また、2月には多くのオリンピック選手を育てた小出義雄氏を迎えてランニング教室を開催し、</p>

会議事件名	て ん 末
	<p>実技指導と子ども達に夢や希望を与える講話をいただいている。最近の中学校やスポーツ少年団のチームが各種大会で大変良い成績を上げているのは、トップアスリート事業がこれらの成績に繋がっているのではないかと考えていることを述べた。</p> <p>次に、本田裕議員から羽生市における文化財保全についての一般質問があった。1点目の勤兵衛マツに関しては、大正15年に天然記念物として指定されているが、指定されたマツは現在、1本を残すのみとなっている。教育委員会では樹木医に診断を依頼し、診断結果に基づき幹の中の空洞にシリコンを補填し、幹全体にカバーをかけて保護していることを説明した。今後は天然記念物指定のマツの維持管理を進めていくことは当然であるが、指定以降に植えられたマツも元気に育っているため、並木の存続に力を注いでいきたいと答えた。2点目は葛西用水取入口跡が文化財としてどのように位置づけられているかという質問であった。葛西用水取入口跡は、利根川の東遷の後、利根川から直接取水する用水路を開削したが、昭和43年に利根大堰が完成し、現在は埼玉用水から取水しているため、その役割を終えている。現在、葛西親水公園にある取入口は、当時をイメージしたモニュメントとして平成5年につくられたものである。文化財としては、昭和48年に市の史跡に指定されている。現在は利根川堤防強化事業が進められており、公園の面積が約半分に減少し、取入口モニュメントもなくなってしまった。利根川上流河川工事事務所と可能な限り現在の状態が復元できるよう協議を重ねている旨を答弁した。</p> <p>続いて奥沢和明議員からムジナモ自生地と堀上田についての一般質問があった。1点目の自生地の状況については、6月に約3700株、8月に約9000株のムジナモが確認され、非常に良い状態が続いており、5年に渡る緊急調査の成果が現れてきているのではないかと考えていると答えた。2点目は、堀上田の実施であるが、現在は国指定の天然記念物の敷地であり、現状を変えることは国の許可が必要であり、また、変えたことにより、現在良好な状態のムジナモがどのように変化するののかも不明な所である。そのため、当面は堀上田を実施せず、現状維持に努めると答えた。3点目の自生地の外周の環境整備については、県主催の意見交換会において、地元の方から外周に木道を作ってはどうか、展望台など</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項2 高校生インストラクター講座の結果について</p> <p>報告事項3 市指定文化財「羽生の獅子舞」現地見学会の結果について</p>	<p>岩本委員長</p> <p>生涯学習課長</p> <p>生涯学習課長</p>	<p>のスペースを作ってはどうか等の意見が出され、教育委員会としても県に提案している。4点目は世界キャラクターサミット等でムジナモ自生地をもっとPRしてもいいのではないかと提案であるが、各イベントにおいて展示ブースを設ける等、PRしていきたいと答えた。5点目の展望台つき資料館の設置の提案については、設置した場合にムジナモに影響が出るかどうか懸念が残る。設置後の維持管理についても課題があり、十分な研究をしたい旨を答弁した。</p> <p>報告事項2及び3について、生涯学習課長より説明を求めた。</p> <p>羽生実業高等学校のコンピューター室において「みんなのパソコン教室」と題して9月5日に開催した。高校のコンピューター部部員が講師となり、オリジナルのカレンダーづくりをした。参加者は10代から70代の方14名となった。アンケートではパソコン教室継続の希望、年賀状やホームページ作成を学びたいとの意見があった。講師となった高校生も今回が2回目であることもあり、意欲的であった。同校ではフラワーアレンジメントで県代表として全国大会に出場したそうなので、関連した講座も今後考えていきたい。</p> <p>市指定文化財となっている獅子舞の奉納に合わせ、下手子林で9月12日、桑崎で9月27日に見学会を行った。参加人数は、下手子林で5名、桑崎で4名と少なかったが、下手子林では棒術で小学生2名の参加があり、非常に良かったと思っている。桑崎についても、午前中、午後、夕方と3回行うが、夕方の回で小学生が参加した。これは、獅子舞保存会の方が小学校に定期的に教えに行っていることによる。後継者不足の解消、文化財の獅子舞の承継に繋がっていければと考えている。</p>

会議事件名	て ん 末	
報告事項4 第33回羽生市教育長 杯争奪中学野球大会 の結果について	岩本委員長	報告事項4から6について、スポーツ振興課長より説明を求めた。
報告事項5 平成27年度ニュース スポーツ出前教室の開 催について	スポーツ振興課長	9月20日と21日の2日間に渡り中央公園野球場において開催した。市内3中学校に加え普段は交流の難しい県内でも強豪とされている市外5チームを招待し、計8チームにより開催した。試合結果は、市内チームは東中学校、南中学校が第3位であった。
報告事項6 第31回羽生市綱引選 手権大会の開催につ いて	スポーツ振興課長	スポーツ推進委員が各地区に出向き、ニュースポーツの指導をする教室である。昨年度に引き続きスポーツ実技の他に、健康づくり支援課の協力の下、健康チェックの体脂肪測定及び保健師による健康相談を行う予定である。ニュースポーツの種目は、フロアカーリング、羽生市のスポーツ推進委員が考案した「ねらえ!! ムジナもん」と「カップインゴルフ」である。11月1日から12月20日までの期間に市内全地区で開催する。
報告事項7 その他	岩本委員長	その他の報告事項を求めた。
	生涯学習課長	吹奏楽マスタークリニックの結果について報告する。産業文化ホールにて市内中学校の吹奏楽部の生徒を対象にプロの音楽家の指導による技術の向上と相互交流を目的として9月21日に開催した。講師は9名、参加者は東中学校25人、西中学校24人、南中学校35人の計84人であった。実施内容は、楽器ごとの個別練習と、市の吹奏楽フェスティバルでの合同演奏曲の合同練習。参加者へのプロによる的確なアドバイスがとても効果的であった。

会議事件名	て ん 末	
	岩本委員長	報告事項に関して質問・意見を求めた。
	古市委員	産業文化ホールの自主事業が大変好評であり、今後は歌舞伎を行うとのことで、良い方向に向かっており大変喜ばしい。また、市民が小ホールを借りて演奏を行うなど質の高い事業もあり、そのような取り組みが市民に認知され、参加者が多くなればよいと思う。立派なホールがあり、立派な演奏をする事は一つの文化であるが、市民が催し物に参加することも地域の文化として重要な事であると思う。中学校の吹奏楽フェスティバルや、レベルの高い演奏の催しに市民が足を運んでいないことが残念だと思う。積極的にPRし、市民の参加に対するサポートを行っていただきたい。
	生涯学習課長	ホールを貸し切って楽器を演奏したり歌を歌ったりする事業は好評であるため継続したい。来年度に向け地元で活動している方の発表の場を作れるような企画について指定管理者と進めている。PRについてはイベントガイド等も発行し、工夫しながら行っていきたい。
	春山委員	9月定例市議会での保泉議員による市政に対する一般質問の教育委員会制度改革について、市長、教育長の答弁にもあったが、教育委員会制度改革では、教育委員としての取り組みも大事であると考えている。特に総合教育会議は先進的な役割を果たしているため、私達自身の意識の一層の充実を図っていかねばと思う。
	教育長	野中議員の一般質問の無料学習会について、現在教育委員会も計画していることだが、主旨や方法、課題等が山積している。部長から説明願う。
	学校教育部長	平成28年度より小学校4年生から6年生の児童を対象にした無料で通える「学力アップ羽生塾」の開設を検討している。最近の経済状態を踏まえて、経済的な格差が学力の格差になっているのではないかという指摘があり、一概に言い切れないが否定はできないと思う。本市の場合は、基礎学力の不足が大きな課題と考え

会議事件名	て ん 末	
	<p>教育長</p> <p>岩本委員長</p> <p>教育長</p>	<p>ている。現在、市内の中学校では荒れた状態はなく、生徒達も勉強しなくてはいけないという意識が高い。しかし現実には小学校の段階から勉強が苦手で、中学校へ行くともっと難しいからなかなか学力が伸びない。そこで、小学校段階で基礎学力不足である子どもについて、学校の中では限界があるため、学校外で勉強できる環境を整えていく。その成果や状況を見ながら、中学校についても取り組んで行きたい。</p> <p>予算次第で事業の規模も決まってくるため、国から何らかの補助が出るなら最大限活用していく。基礎学力の向上であるため、取り残されたり、家ではなかなか勉強できないという子どもたちを対象に行っていこうとしている。対象者をどのように集めるかは、学校と協議しながらやっていかななくてはいけないと思う。全部ではなく一部の基礎学力の強化を図る必要のある子ども達を対象に行う。実施場所は公民館などが考えられるが、その他に対象者は誰にするか、指導者はどうするかという問題がある。塾に行けない子ども達を集めて、公的な機関が塾をやってもいいではないか、そのようなスタンスも持っている。</p> <p>以前オーストラリアでホームステイをしたときに、その小学生の子が留年した。自分はここまでしかできないから、このような学級、学年に所属しているということその子は客観的に受け入れており、親も受け入れていた。そのことは、その子が決して落ちこぼれということではなく、一人一人環境が違う訳であり、今の自分にとって必要なことをしっかりやるのが大切だと思う。義務教育の時に基礎学力をつけることは大事であり、経済的な問題も大きく影響することは事実だが、子ども達が自ら意欲を高められる場所が公的に提供できるならば、素晴らしいことだと思う。</p> <p>ムジナモ自生地の関係だが、今年は1万株近くまで増え、昨年に比べると10倍の株数である。これを世間は出来上がった、取組みが成功したと思うかもしれないが、何故それだけ増えたか、我々はその理由をつかみきっていない。ムジナモを保存していくこと</p>

会議事件名	て ん 末	
		<p>は、単にムジナモの生育に害があるものを除外することではないということが研究で分かってきた。ムジナモを食べる鯉やフナ、カエルを完全に駆除するわけにはいかない、それらが食べるものを研究すると、タヌキモを沢山食べているようで、タヌキモが無くなるとムジナモを食べていることに気が付いた。ある程度のタヌキモと食害となる生物を極力排除し、そのような取組みの中でここまで来たということである。しかし、果たしてそれが正解かという、検証はできておらず、いつ急変するか分からない。地域の方からは、自生地の中に入れてほしいとの要望があるが、宝蔵寺沼のムジナモ自生地が天然記念物の指定を受けており、環境に手をつけることは簡単にはできない。要望のとおり歩道を造り、そこからムジナモを観察できるようにした場合、今まで見せないようにしてきた部分が見えるようになり、盗難が心配になってくる。株数が増えたのは事実であり、嬉しいことであるが、これらの課題を理解していただき、本事業について今後ご意見いただければと思う。</p> <p>柿沼委員 基礎学力向上の件で、塾で全国的な模試を受けると、ある教科だけが平均を随分下回ることがあったりするとの事。塾の講師等を招いて情報交換もあれば良いのかと思ったこともある。埼玉県のある私立高校では、放課後に塾の先生を入れて徹底して勉強をさせるような話もある。義務教育においてもそのようなことが必要なのではないか。</p> <p>学校教育部長 塾の講師を招くという事例があることは聞いている。受験指導的な事が多くなってしまいう可能性もあるが、基礎学力向上のために必要であれば検討していきたいと思う。塾に依頼する場合は費用がかかるため、きちんとした予算組みをしていく必要があると考えている。塾ではないが、羽生市は民間の活力を使い、子ども達の通常の学校の教育活動をいかに向上させていくかを行っている。現時点では、ニュートンと昨年度から提携をしており、タブレットパソコンの提供に加え、理科の授業に活用する大変高度なソフトを無償提供していただき、それを使った授業研究会が、今年の文部科学省の ICT 活用の事業に繋がってきている。また、ベ</p>

会議事件名	て ん 末	
	教育長	<p>ネッセとも連携を行い、豊富な教育情報を活用し、子ども達の学力向上に繋げる取組みを今年度から始めている。さらにNTTとの連携を行う等、子ども達の学力向上、先生の指導力向上について民間の活力を使いながら取り組んでいく。</p>
	学校教育課長	<p>羽生市では学力向上推進委員会があり、そこへ刺激を与える。委員会が動かないと羽生市の学力は向上しないということである。</p>
	教育長	<p>本市の学力向上推進委員会は学校の教育課程の要となる教務主任及び主幹教諭がメンバーである。これまでは学期に1回開かれていたが、今年からもっと頻繁に開催する。10月20日に次の学力向上推進委員会があるが、通常の本会議の後に、ベネッセから学力向上の施策について講話いただけることとなっている。本市が進めている教育の三本柱、ICT、外国語、道徳のうちICTを核にベネッセと協力していく約束も取り付け、推進していく。</p>
	学校教育部長	<p>先生方の指導力を上げることが課題であり、このことについては校長会でも話し、学校、教育委員会ともに緊張感を持っている。ベネッセの指導は継続的に行っていく。</p> <p>昨日の自治会連合会の中で、学校教育部長が教育についての課題を説明した。進路指導を中心とした話であったが、遅くまで学校に電気がついていないことについて、そんな遅くまで何をやっているのかとの強い批判が出ていた。確かに、先生方は遅くまで仕事をしているが、自宅に持ち帰って仕事を行う訳にはいかず、子ども達が下校した後でなければ事務作業はできない。先生方の立場はなかなか理解してもらえないという課題がある。また、研究発表等は簡単にできるものではなく、先生方が英知を結集して、皆で作りに上げていかないと学校力が上がらない。なかなか理解してもらえないが、先生方にも出来るだけ手際良く上手に処理して欲しいと思っている。</p> <p>苦しい質問だったが、学校の実情を丁寧に説明した。勤務時間は、8時から4時半までだが、なぜ夜の8時、9時まで残っている</p>

会議事件名	て ん 末	
		<p>のか、勤務時間内は子どもがおり、中学校では6時まで部活をやっている。子どもがいる時間では基本的に成績はつけられず、丸つけもできない。1時間の良い授業を行うためには3倍の教材研究の時間が必要と言われており、当然、先生方も授業をやるための準備をしている。しかし、何故勤務時間内でそれをやらないのかということが払拭出来ず、なかなか学校の状況は理解してもらえなかった感がある。</p> <p>岩本委員長 前回の教育委員会でも話題になったが、守るべきことは守る、変わるべきことは変えなくてはいけない。変化を恐れていると良くない気がする。色々な意見や取組みの例があったが、これからも子ども達のために積極的に変化を起こす気持ちでやっていかないと、社会の変化についていけないのではないかと思う。</p> <p>古市委員 ひとつの事例として、南中学校ではスポーツの方でなかなか良い成績を上げているが、歯科検診で治療勧告書をもらっても部活で忙しく治療出来ないことが長い間課題になっていた。それが、南中の校長先生と相談したところ、担任の先生より、部活の先生の言うことを聞く生徒もいるとの事だったので、部活の先生から治療に行けと言ってもらった。もしかしたら、勉強しろと部活の先生が生徒に言うと、頑張る場合もあるという気がした。同じグラウンドで汗を流している人間関係は、授業を受けている人間関係と違うところがあり、良いヒントをいただいたと思った。</p> <p>教育長 やるべき事をやらないと部活をやるのもつらいという所もある。学習指導が基本にあり、その先に部活がある。しかし学習指導で芽が出ない子どもが部活で成功することもあるため、その辺りが大事な所でもある。</p> <p>岩本委員長 報告事項について、よろしいか。</p> <p>異議なしの声あり。</p>

会議事件名	て ん 末	
	岩本委員長	次回定例教育委員会の開催日程について事務局より説明の旨。
	教育総務課長	次回定例教育委員会は、11月12日午前10時より、給食試食会も兼ねて給食センターで開催する。
	岩本委員長	<p>閉会を宣した。</p> <p>委員長 _____</p> <p>委員 _____</p> <p>委員 _____</p> <p>書記 _____</p>